

# 研修員's VOICE

Vol. 15

世界各国からJICA沖縄にやって来た  
研修員を紹介しています。



ヴィレイさん(右)とご家族

氏名: Mr. VILAY Phoutnalong (ヴィレイさん)

国名: ラオス人民民主共和国 

コース名: ラオスのマラリアに関する疫学研究

研修期間: 2016年4月1日 ~ 2019年3月31日

## ラオスってどんな国ですか？

豊かな自然と心豊かな国民が自慢の素朴な国で、人口約650万人、面積24万km<sup>2</sup>、インドシナ半島の中心で5カ国と国境を接している内陸国です。ラオス北部にある世界遺産の古都ルアンパバーンは、中世の王宮やラオス最古の寺院があり、独特の歴史と文化が魅力の観光地です。おすすめのラオス料理は、肉や魚などに辛い味付けをするラープ(larb)です。ラープは幸運 (good luck) という意味で、年始や外国に行く人の歓送などお祝いの場で食されます。ラオスではお酒もたくさん飲まれます。

©JICA/Shinichi Kuno



首都ビエンチャンにあるラオスの象徴タートルアン

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



大学での研修の様子

## 研修の内容と今後の目標は？

琉球大学医学部保健学科の国際地域保健学教室でマラリア対策の研究を行っています。ラオスのマラリア感染者は減少傾向にあるものの、地方では依然として深刻な問題です。国家予算に占める保健分野への支出は3%と低く、今後7~9%まで上げる必要があります。マラリア対策には保健分野のみならず、予防の重要性を伝える教育や、国際機関、民間セクターといった多様なアクターを巻き込んでいくことが大切です。私も研究内容を政策に活かすことで、ラオスが目標とする「2030年までのマラリア撲滅」に貢献していきたいです。

## 沖縄での生活はどうですか？

沖縄は大好きです！ラオスと沖縄の気候は似ており、家族と暮らしているので、生活にはすぐに慣れました。妻と娘と一緒に動物園へ行ったり、沖縄のきれいな海でシュノーケリングを楽しんでいます。地元の方々や留学生仲間にも、家族ぐるみで仲良くしてもらっています。大学の先生方や研究室の仲間、JICAからのサポートが手厚く、ワークショップや会議での学びも多く、研究生生活は大変充実しています。2019年3月に帰国しますが、日本滞在中に家族と東京ディズニーランドに行くのが夢です。



東南アジアの「水かけ祭」を沖縄でも行いました

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。